

1986年度●フリーハンデ決定

**4歳、ダイナガリバー64^{キロ}。
メジロラモーヌに4歳牝馬
最高の62^{キロ}。だが5歳以上
は低調の感で、サクラユタ
カオーに63^{キロ}。**

1986年のフリーハンデは、美浦、栗東、本部の8人のハンデキャッパーが討議の末、4歳馬、5歳以上、3歳馬、短距離の4部門が別表のように決定した。

●美浦トレーニングセンター
岩沢弘文、甲佐勇、滝澤 勇
●栗東トレーニングセンター
小林 茂、渡辺駿六、吉田武徳、今泉俊彰
●本部審判部
柴田 裕

●短距離部門(4歳以上)

大きな収穫は4歳馬ニッポータイオの活躍。ギャロップダイナ63^{キロ}。

——昨年はニホンピロウイナーに最上限と思われる66^{キロ}が付いたが、この路線は定着したといえるだろうか。

滝沢 短距離路線はこととして3年目だが、この路線は確実に定着してきている。ことしの大きな収穫は4歳のニッポータイオの活躍だろう。クラシックからこの路線に参加して大成功をおさめた。従来は何が何でもクラシックという考え方オンリーだったが、ニッポータイオが相当の実績を上げたことで、来年からは4歳でも短距離適性の馬はクラシックに行かないでこちらの路線にまわってくるようになるだろう。また牝馬についても来年からはこの路線にどんどん参入してくると思われる。牝馬は中長距離以上では古馬に太刀打ちできない状態のため、独自の牝馬路線を歩むか、短距離路線に参加するかのどちらかを選ばざるを得ない。タカラスチールがマイルチャンピオンシップに勝ったことでの傾向はさら

に強まると思われる。

柴田 来年の番組改正でさらにこの路線は確立されるだろう。春の4歳の短距離重賞としてベガスS、クリスタルCが新設された。そしてニュージラントロフイー4歳SがGIIIからGIIに格上げされ、賞金も引き上げられた。これまで春は明確な4歳短距離路線がなく、クラシック中心にならざるを得なかったが、この番組改正によって短距離路線とクラシック路線が一段と強く色分けされてくるだろう。

——では、具体的な評価に移りたい。

滝沢 ニッポータイオ、タカラスチール、ギャロップダイナが上位だ。この3頭からはじめることにしよう。

渡辺 ニッポータイオは4歳だが、古馬になるとおそらくニホンピロウイナーに迫る器になるのではない。安田記念に勝ったギャロップダイナと並べるぐらいの評価を与えたい。マイルチャンピオンシップの取りこぼしはマ

イナス材料だが、内容的には勝つてもおかしくないものだった。

岩沢 同感だ。結果は2着だが、勝ったと同じ評価でよいのではないか。

小林 もし来年ニッポータイオーが無事なら、この馬に短距離重賞を全部持つていかれてもおかしくない。

渡辺 総合評価よりはさらに高い評価が必要だろう。

柴田 ニッポータイオーに限らず、総合評価との兼ね合いがむずかしい。総合評価はいま一つだが短距離では抜群という馬もいる。来年以降のために、基準を明確にしておく必要がある。

吉田 是非ともそうすべきだ。距離の分化が急速に進んでいる。短距離路線が新たに明確にされたことで、来年からはさらに拍車がかかるだろう。短距離に完全に色分けできる馬は、ことしからは独自に扱い総合評価から抜いてよいのではないか。

渡辺 逆もまたいえる。上位はともかく下位のランクで総合評価よりも短距離の評価が下がる馬についてもはばずしていいのではないか。

柴田 生産のパロメータにするためにそれは必要だ。マイル以下で活躍した馬は総合では評価せずに単独にこの短距離部門で評価することにしよう。

吉田 いずれにせよ下位のランクでは、総合評価もしくは、短距離評価のどちらか一方を評価から削除する馬も出てくる。さしずめ、ことしの場合はロングハヤブサ、トリアファルコン、ドウカンテスコあたりは総合では除外して単独に短距離部門での評価になろう。小林 ただ、たとえばエルプスのような馬の場合はどう扱うか。クラシックを勝った馬を総合評価からははずすわけにはいくまい。まだ完全な線引きはむずかしいのではないか。

柴田 4歳とくに牝馬の競馬の場合は短い距離が多い。クラシック路線できた馬については総合評価からははずせないだろう。

小林 では、ニッポータイオーの評価に戻ろう。私はこの馬に63*を与えたい。この馬は短距離路線の確立によって能力を発揮した名馬といえよう。クラシックを無視して4歳で独自にこの路線を歩んできたのだから、それなりの評価を与えてよいと思う。

甲佐 ニッポータイオーについてはGIを勝つてない馬に63*というのは重すぎる。

今泉 私も同感だ。

吉田 ニホンビロウイナナの4歳時が目安となるだろう。この馬は59*の評価だったが、4歳の時点であらばた場合、ニッポータイオーのほうがはるかに上だ。

小林 古馬の場合、春は安田記念というGIの頂点があるが、4歳の場合はGIIIのニュージランドトロフィー4歳Sしかない。春の時点でギャロップダイナは安田記念を勝ったが、それとニッポータイオーを比較するのはかわいそうだ。あまりGIの格にこだわると、いくら能力があっても4歳の目方というのはおのずから下に決まってしまう。そういう見方ではなくて、夏以降の変身ぶりとそのレース内容を評価してやるべきだろう。

柴田 古馬のニホンビロウイナナには歴代最高ということと昨年66*に格付けしたが、ニッポータイオーは過去の4歳馬と比較しても別格の評価となる。今後の4歳馬のレイティングの基準ともなるだろう。

岩沢 3頭の中ではタカラスチールが若干落ちるだろう。ギャロップダイナとニッポータイオーの兼ね合いが難しい。

1986年度○フリーハンデ

柴田 ギャロップダイナは安田記念と東京新聞杯に勝っている。春の天皇賞はメンバーが手薄だったが、安田記念のほうはメンバー的に強いところが集まっていた。このへんがギャロップダイナの評価となるところだ。

甲佐 ギャロップダイナとニッポータイオーは62*の並びでどうだろう。

岩沢 私はギャロップダイナ63*、ニッポータイオー62*だ。

柴田 ニッポータイオーの毎日王冠の2着というのはひじょうに高い評価が与えられる。マイルチャンピオンシップも負けて強しという感じだ。

小林 格は別として春の成績をみればやはりギャロップダイナのほうが上だろう。安田記念を圧勝したこととヨーロッパ遠征へのはつきりがついた。その点を評価したい。

柴田 では、ギャロップダイナ63*、ニッポータイオー62*で決めたい。

渡辺 次にタカラスチールだが、評価は昨年のエルプスの58*よりは上だろう。

柴田 60*はちよつと無理か。

小林 春は完敗だ。勝ち鞍もマイルチャンピオンシップ一つしかない。レース展開もたぶんに恵まれていた。59*だろう。

柴田 60*にするとセックスアローウンスからいってニッポータイオーと同等になる。

格になる。やはり59*で決めたい。

渡辺 ロングハヤブサは60*でどうか。小林 賛成だ。ロングハヤブサは総合から削除してある。単独の見方として60*を推したい。この馬は年間を通して短距離路線でいいレースを続けた。

秋のオパールSでは62*の目方を背負って強い競馬をしている。単独ではかなりの評価をしてよいと思う。

吉田 総合評価からははずす馬は、短距離で1部門で独自の評価をすべきだ。

柴田 では、ロングハヤブサは60*。

甲佐 トリアファルコン、スズパレードは58*か。トリアファルコンは春は6戦して5連勝と破竹の勢いだった。

スズパレードはダービー卿チャレンジトロフィーを60*で勝った。

渡辺 ホリノカチドキは一つ下の57*だ。アイランドゴツテスは56*。

滝沢 55*以下を整理したい。まず55*では、コーリンオー、セントシーザー、トウシヨウベガサス、ドウカンテスコ、ダイナフエアリーの5頭。53*はゲイリーマツハ、アサクサエリート、ダイナシュート、マルタカストームの4頭。

今泉 52*では、メジロディッシュ、チュウオーサリ、マツコトブキ、イブキバレーナ、マチカネエルベ、ビギナーズラックの6頭。

柴田 モンテジャパン、ユキノローズは短距離からははずして総合に入りたい。

4歳馬

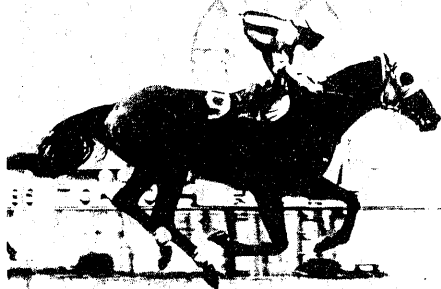
ダービー、有馬記念を勝った ダイナガリバーを最上位の64*。

4歳馬について、まずことしの概況から話を進めていきたいと思います。

柴田 ことしの4歳はシンボリドルフのような傑出した馬はいないが、全

体的なレベルは高かったといえるのではないかな。なかでも、有馬記念優勝のダイナガリバー、高松宮杯に勝ってジャパンC4着のラグビーボール、函館

**'86年のフリーハンデ
短距離(1600以下)4歳以上**



63	ギャロップダイナ
62	ニッポーテイオー
60	ロングハヤブサ
59	※タカラスチール
58	スズバレード
	トアアフルコン
57	⑤ホリノカチドキ
56	④※アイランドゴッテス
55	コーリンオー
	※セントシーザー
	※ダイナフェアリー
	ドウカンテスコ
	トウショウベガサス
54	※ダイナシュガード
	④※ドミナスローズ
	リードトリプル
53	アサクサエリート
	ゲイリーマツハ
	※ダイナシュート
	マルタカストーム
52	※イブキバレーナ
	※チュウオーサリー
	※ビギナーズラック
	⑤※マチカネエルベ
	※マツコトブキ
	※メジロディッシュ
	(計26頭)

※牝馬 ⑤父内国産馬 ④抽せん馬 ③公営出身馬 ②市場取引馬 ①外国産馬

記念を日本レコードで優勝し毎日王冠では天皇賞馬サクラユタカオーの2着に健闘したニッポーテイオーの活躍は古馬を圧倒していた。この3頭については高い評価を与えなければならぬだろう。

岩沢 確かに有馬記念では優勝を含めて1歳馬が3頭も入着したように、傑出馬はなくとも力量の接近した中でハイレベルな年だった。ことしは三冠ともそれぞれの距離に最も適性のある馬が勝っているのが特徴だ。菊花賞の時点では上位クラスの力は接近していると見ていたが、有馬記念を勝ったことでダイナガリバーが4歳のトップに抜けた感がある。その他の取り巻きもジャパンCで健闘したラグビーボールを筆頭にかなりハイレベルだ。

渡辺 このところ東高西低がつづく中で、ことしは関西からもラグビーボール、メジロデュレン、タケノコマヨシらの活躍馬が出た。関西馬が復活の兆しを見せたことは大きい。

柴田 この4歳馬上位はヨーロッパも同じで、12月16日付の「インターナショナル・クラシフィケーション」を見ると、凱旋門賞を勝ったダンシングブ

レーヴがレイティン141にランクされている。過去、英愛ダービー馬シヤガー、凱旋門賞2連覇のアレックドが最強という形で140だったのが、ダンシングブレーヴはこれを一上回った。そのほか仏ダービー馬ベリング、英ダービー馬シャリラスターが134にランクされるなど4歳馬がかなり評価されている。

今泉 例年になくことしは4歳馬の活躍が確かに目立ったが、裏を返せばそれだけ古馬の層が薄かったといえはしまいか。パシヤンボーイは故障で戦線を離脱していたし、ミホシンザンはいまひとつの成績だった。またスタホークも秋は不意な成績に終わっている。その点でダイナガリバーの評価が難しいところだが、昨年のミホシンザンとの比較が重要だろう。

甲佐 函館のニッポーテイオーや高松宮杯のラグビーボールは混合戦初期にもかかわらず、いきなり強い勝ち方をした。古馬の層が薄いといえればそれまでの話だが、4歳のあの時点で古馬を一蹴するというのには並の能力ではできない芸当だ。それを考えると私はダイナガリバーを昨年のミホシンザンと同格もしくは上に評価したい。

柴田 春と秋の古馬陣を比べると、春はトップクラスが休養中ということもあって確かに層は薄かった。しかし秋になるとやっとミホシンザン、サクラユタカオーら大物が復活してがらりとハイレベルになった。ミホシンザンはジャパンC3着だが日本レコードで走っているように内容的には素晴らしいものだった。サクラユタカオーも毎日王冠、天皇賞をレコードで圧勝している。ダイナガリバーは有馬記念でその両馬を負かしたのだから、ミホシンザン並みの評価をしてもよいと思う。

小林 私も4歳馬の上位クラスはかなりのハイレベルだと考えている。

渡辺 ラグビーボールはG1勝ちはないが、菊花賞から中1週のローテーションでジャパンC4着の好走は菊花賞馬並みの評価を与えるべきだろう。

柴田 では具体的なレイティンにはいろいろ。昨年のミホシンザンは皐月賞、菊花賞の二冠に有馬記念2着の実績から64だった。このミホシンザンとダイナガリバーを同格にするか、もしくは下におくかについて比較検討してみたい。

渡辺 ダイナガリバーも何ら実績では劣らない。64で両馬を並べてよいの

ではないだろうか。

甲佐 一つ上の65*にすると三冠馬ミスターシービーと同じだが、それにはちよつと足りない。やはり並べるのが妥当だろう。

小林 ただ、ダイナガリバーは強さを強烈にアピールする見せ場がない。

岩沢 確かにそうだが積極的に前に行って直線で二の脚を使うレースぶりは近代競馬にマッチしている。

吉田 共同通信杯4歳Sのタイムは速いし、好位につけて抜け出てくる戦法は取りこぼしが少ない。騎手の好騎乗もさることながら強さはことしの4歳の中では抜けている。昨年のミホシンザンとくらべても何ら劣らない。ミホシンザンの場合、若干メンバーに恵まれていたところがある。そうした点を考慮すると、ダイナガリバーの有馬記念勝ちには、高い評価を与えてよいのではないか。

柴田 ミホシンザンとは同じ力量とみていいだろう。ダイナガリバーを64*にする。

小林 二番手グループには皐月賞馬ダイナコスモス、菊花賞馬メジロデュレンのほか、ラグビーボールやニッポーテイオーが挙げられようが、無冠のラグビーボールをどう評価するかが問題だ。例年のダービー馬には62*が付けられるが、私はラグビーボールにそれ以上の評価を与えてもよいと思う。

柴田 最終的にメジロデュレンとの比較になるだろう。ここ2、3年の菊花賞馬は三冠馬2頭に皐月賞に勝ったミホシンザンなので参考にしにくい。タイプとしてはホリスキー、グリーングラスに似ている。この両馬が61*だから、メジロデュレンも同格の61*ということになるだろう。その場合、ラグビーボールはメジロデュレンより一つ上

の62°になるのではない。

吉田 菊花賞馬はだいたい61°だが、メジロデュレンは例年の菊花賞馬とくらべて上だろうか。この馬の充実ぶりや潜在能力は高く評価できるが。

渡辺 ホリスキーはダービーでも好走しているし、ミスターシービーのときのメジロモンスニーが60°だったことを考えると、メジロデュレンは60°が妥当ではないか。

小林 いや、メジロデュレンが例年の菊花賞馬の下というのではない。初めての重賞挑戦でG1制覇というのは評価すべきだし、何といってもダイナガリバーに競り勝ったレースぶりには凄味があった。61°でよいだろう。むしろ、ラグビーボールの評価が問題だ。ジャパンCではミホシンザン以外の相手に力をつけている。4歳馬には酷なローテーションでよく4着にきたと思う。もう1週間余裕があれば結果はさらによかったのではない。

甲佐 62°だと歴代のダービー馬と同格になる。その点がどうだろう。

柴田 ことしのジャパンCは招待馬も日本の古馬も中味はひじょうに濃かった。その中で4着だから、過去のダービー馬と比較しても同等の評価をしてもいい。ことしから秋の天皇賞には4歳馬も出走可能となり、また菊花賞とジャパンCとのローテーションがゆつたりした。ことしから4歳馬の出走がふえると思われ、秋のG1である3競走は4歳馬のレイティングを決める上で、大きなウエイトを占めることになった。従ってラグビーボールは高松宮杯のレース内容、ジャパンCの成績を評価し62°、メジロデュレンを61°とする。

渡辺 次はダイナコスモスとニッポータイオーだが、後者の場合は短距離の部で評価したのでここではダイナコス

モスから進めよう。

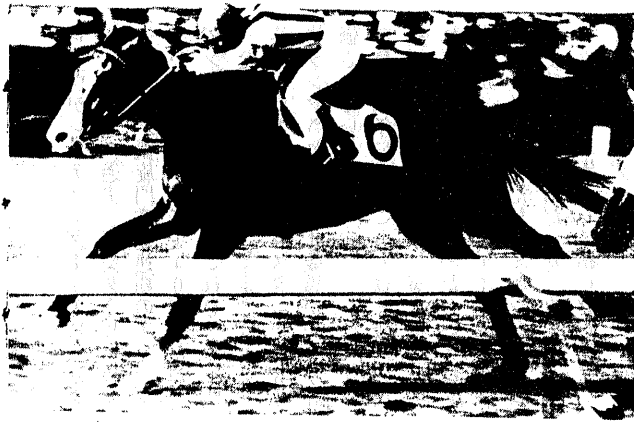
今泉 この馬の場合、秋は故障で参考にならないが、少なくとも春の時点ではニッポータイオーに完全に勝っているわけだから、当然60°以上は付けるべきだろう。皐月賞馬だし、ラジオたんぱ賞の中味はニッポータイオーに完勝といえるものだった。

柴田 確かにそうだが、ニッポータイオーについては春だけの比較ではなく年間トータルで考えていくべきだろう。

滝沢 それでもメジロデュレンと比較しても何ら遜色ないと思う。

岩沢 ダイナコスモスのラジオたんぱ賞もメンバー的に相手はニッポータイオーだけだったが、58°という重いハズレを背負っていたにもかかわらず内容はじつに強い勝ち方だった。

吉田 少なくともダイナコスモスはクラシック馬、それなりの評価をするべきだろう。参考にアズマハンターを見てみると皐月賞に勝ってダービー3着で61°だ。これと同じ評価を与えてよ



▲ダイナガリバーは、ダービー、有馬記念を勝って4歳最高の64°。

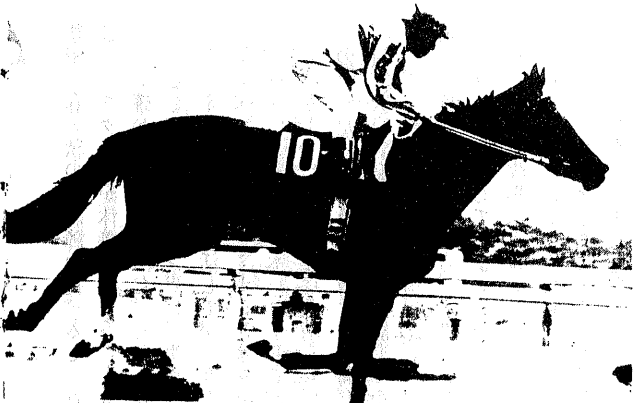
1986年度フリーハンデ

いのではないだろうか。

甲佐 ニッポータイオーに似た感じのニホンピロウイナーが59°だ。勝ったレースはさきさらぎ賞とCBC賞だから、これよりはニッポータイオーのほうが一つか二つ上になって当然だろう。

渡辺 同感だ。そのニッポータイオーとダイナコスモスの比較になるが、年間トータルではニッポータイオーのほうが力はずっと上とみる。成績も安定してきたし、春にくらべてレース内容が素晴らしい。

柴田 毎日王冠ではサクラユタカオーの2着だが、自身もレコードで走っている。しかも、この時期は、その後サクラユタカオーが天皇賞をレコード勝ちしたように古馬のレベルが最高に達していたときだった。事実、毎日王冠はミホシンザンをはじめ超一級のメンバーが揃っていた。それだけに2着でもニッポータイオーには最大級の評価を与えたい。一連の重賞を勝ち負けしているし、マイルチャンピオンシップは足元をすくわれた感じだ。無冠なが



▲「牝馬三冠」のメジロラモーヌは、62°。

ら、ダイナコスモスよりは上に評価すべきだろう。

小林 ではニッポータイオーをメジロデュレンと同じ61°にしよう。ダイナコスモスは一つ下の60°だ。

渡辺 上位に駒不足の関西だが、59°ではタケノコマヨシ、フレッシュユボイスを推したい。

小林 フレッシュユボイスは皐月賞2着だし、有馬記念5着は評価できる。タケノコマヨシも神戸新聞杯、京都新聞杯を連覇するなど秋になつての充実ぶりは素晴らしい。それに、中距離タイプながら菊花賞では5着にきた。両馬ともに59°で賛成だ。

滝沢 関東ではアサヒエンペラーを推したい。昨年のスクラムダイナはノンタイトルで59°だが、アサヒエンペラーはそれに迫る実績だ。

今泉 ダービー2着のスタホークが59°だ。3着のアサヒエンペラーは58°でよいのではない。

岩沢 タイトルがなくとも皐月賞、ダービーともにそれぞれ差のない3着だった。これは立派な実績だ。

柴田 ではタケノコマヨシ、フレッシュユボイス、アサヒエンペラーの3頭を59°。

甲佐 その下のグループではサニールイト、メジロポアル、レジエンドテイオー、グランパズドリーム、ダイシンフブキだが、この5頭とも58°でどうか。

滝沢 この中ではスプリングS勝ちのサニールイトの実績が光るが、雪の影響でメンバーが手薄だった。57°どまりだ。そのほかの4頭は56°でいいのではない。

吉田 そんなところだろう。

柴田 では57°以下を整理したい。

甲佐 サニールイト57°、56°が4頭

でメジロボアール、レジェンドテイオー、グランパズドリーム、ダイシンフブキ。
今泉 53歳でマウンテンニゾン、エイシンウオリア、シンチェスト。
渡辺 52歳ではランニングフリー、カッタイフウオー、フミノアブローズ、ピーターホーラー、エイシンガッツ、マチカネイワシミス、ゲイリーマツハの7頭をいれておきたい。

4歳牝馬は、メジロラモーヌに62歳の史上最高の評価。

では4歳牝馬の検討に移りたい。
柴田 ことは牝馬三冠のメジロラモーヌに尽きる。過去、牝馬でレイティングの最高はテスコガビー、インタール、ハギノトップブレイの60歳だ。果たしてこれから何歳上にもっていくべきだろう。

滝沢 牝馬というのは体調をくずしやすいが、それを克服して三冠とこのトリアルをすべて勝つというのは、牝馬でさえ至難なことだ。高い評価が必要だろう。

渡辺 一昨年のシンボリドルフを別格に取りあつたが、メジロラモーヌもそうしていいのではないか。おそらく将来こんな牝馬は出ないのではないか。

岩沢 テスコガビーやインタールよりも3、4歳上にはランクする必要がある。

要があるのではないか。
甲佐 歴代の中で頂点におくのは当然だが、買いかぶりすぎは危険だ。取り巻きが弱かったことは否めないし、エリザベス女王杯がきわどい競馬だった。それに唯一牝馬と対戦した有馬記念で惨敗している。確かに不利があつたが、もし不利がなかったとしても果たして優勝争いを演じたかどうかは疑問だ。小林 エリザベス女王杯はレースのアーヤだろう。早めに抜け出したことで追われる立場になった。それがゴール前であのような結果になったのだと思う。これまでの最強牝馬はテスコガビーだろうが、その馬にしても完調で年間を通すことはできなかったのだから、メジロラモーヌは牝馬の別格に位置付けるべきだろう。

甲佐 ミスターシービーの三冠と同じ

要があるのではないか。
甲佐 歴代の中で頂点におくのは当然だが、買いかぶりすぎは危険だ。取り巻きが弱かったことは否めないし、エリザベス女王杯がきわどい競馬だった。それに唯一牝馬と対戦した有馬記念で惨敗している。確かに不利があつたが、もし不利がなかったとしても果たして優勝争いを演じたかどうかは疑問だ。小林 エリザベス女王杯はレースのアーヤだろう。早めに抜け出したことで追われる立場になった。それがゴール前であのような結果になったのだと思う。これまでの最強牝馬はテスコガビーだろうが、その馬にしても完調で年間を通すことはできなかったのだから、メジロラモーヌは牝馬の別格に位置付けるべきだろう。

甲佐 ミスターシービーの三冠と同じ

考え方でよいのではないか。

柴田 常識的に考えれば62歳か63歳だろう。ただ、63歳になるとセックスアローワンスからいって、ミスターシービーを超えてしまう。

滝沢 ミスターシービーは三冠を取ったがトライアルには負けている。メジロラモーヌはトライアルを含めた三冠に勝っているのだから、実績的にシービーを超えても何ら問題はない。

甲佐 有馬記念を勝つていれば文句なく63歳だ。

小林 しかし、そうなるとクラシックがらみの牝馬路線の評価が問題になる。牝馬三冠を評価し63歳でどうか。

吉田 私もできれば前人未踏の大記録を樹立した功績を評価したい。有馬記念はメジロラモーヌの被害が一番大きかった。この着順は度外視してそれまでの成績で判断したい。できることな

5歳以上

春、秋の活躍馬にレベルの差。秋の活躍を高く評価してサクラユタカオー63歳。

先ほど4歳馬の中で、春秋の古馬のレベルにかなりの開きがあること

ら62・5歳にもっていきたい気分だ。

甲佐 テスコガビーとの間に1歳あけるだけでも最大の評価といえる。

柴田 最終的な結論を出そう。心情的には全員63歳だが、能力的にみてやはり62歳に決めたい。

渡辺 メジロラモーヌ以下の牝馬を整理したい。二番手は何だろう。

今泉 55歳でスーパージョット、ダイナクトレス、ポットテスコレディ。

滝沢 ポットテスコレディを一つの上の単独56歳にできないか。

小林 牝馬の三冠での実績がいまひとつだった。55歳が妥当だろう。

甲佐 次の54歳にくるのがダイナフェアリー。ユウミロク、ロイヤルシルキーは一つ下の53歳。52歳にはマヤノジョウオ、サクラハッスル、エイシンリゲイン、マチカネエルベ、トウホーエイト。

が取り上げられたが、もう少し詳しく全体の概況を話してほしい。

柴田 年間を通じてみると、前半と後半の活躍馬がこれほどはつきり分かれた年もめずらしい。春はクシロキング、スタホーク、パーシアンボーイだったが、秋はサクラユタカオー、ミホシザン、ギャロップダイナが主力になった。結局は、一年を通じて活躍した馬がいなかったということか。それに例年にくらべて上位馬の層が薄かったことがことしの特徴だろう。

渡辺 春は主力がほとんど顔を見せておらず、寂しいかぎりだった。天皇賞に勝ったのはクシロキングだが、秋に

86年のフリーハンデ

4歳馬

64	ダイナガリバー
62	※メジロラモーヌ
	ラグビーボール
61	ニッポータイオー
	メジロボアール
60	ダイナコスモス
59	アサヒエンペラー
	④タケノコマヨシ
	フレッシュボイス
57	サニーライト
56	④グランパズドリーム
	ダイシンフブキ
	メジロボアール
	レジェンドテイオー
55	※スーパーショット
	※ダイナアクトレス
	※ポットテスコレディ
54	※ダイナフェアリー
53	エイシンウオリア
	④シンチェスト
	マウンテンニゾン
	④ユウミロク
	※ロイヤルシルキー
52	エイシンガッツ
	④エイシンリゲイン
	カッタイフウオー
	ゲイリーマツハ
	父※サクラハッスル
	※トウホーエイト
	父※ピーターホーラー
	フミノアブローズ
	マチカネイワシミス
	④※マチカネエルベ
	※マヤノジョウオ
	母ランニングフリー

(計35頭)

なつて一線級のメンバーが相手になると苦戦を強いられている。あながち調子落ちだけとはいえないだろう。2着のメジロトーマスについても過大な評価は禁物だし、春の活躍馬については慎重な検討が必要だ。秋になってミホシンザンが復活したが、4歳時ほどの勢いはなかったような気がする。関西馬にいたっては目を覆いたくなるような状態だった。

吉田 関西の古馬の場合、ニシノライデンをはじめ故障がとくに目立った。

柴田 クシロキングの場合、金杯、中山記念、天皇賞と春はひじょうに見所のある競馬をしたが、確かに相手が強かったとはいえない。それにスダホーク同様秋はさっぱりだった。唯一年間を通じて走ったといえるのはサクラユタカオーぐらいか。この馬は春にサンケイ大阪杯を勝った。

甲佐 春の天皇賞は使い出しが寒い時期ということ、距離が三千二百ということで、上位馬がだんだん嫌いはじめている。そのためメンバーがどうしても手薄になるのは仕方ない。

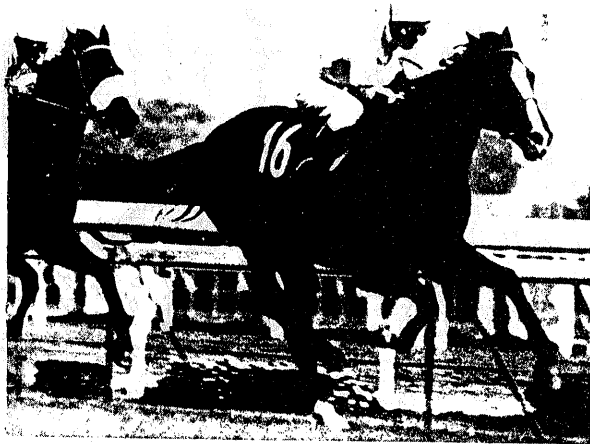
柴田 傾向として日本も長距離指向が薄れつつあるということか。フランスを見ても番組改正で長い距離がかなり短縮されている。ステイヤーにとつてはまさに受難の時代がきているのかも知れない。

——では、具体的な総合評価に移りたい。

小林 春と秋の評価が分かれる以上、メンバー的にハイレベルの秋の馬から検討を進めていくべきだろう。

柴田 秋ではサクラユタカオー、ミホシンザン、ギャロップダイナの3頭が主力になる。

滝沢 ことしは勝ち馬が次々に替わって確かに混戦ムードだった。0・8秒



▲秋に活躍したサクラユタカオーは63。

の中に馬がひしめいた暮れの有馬記念は、そうした形の集約だったといえるだろう。その中ではやはり、日本レコードで毎日干冠と天皇賞を連覇したサクラユタカオーの力が抜けている。3頭の中ではこの馬を一步上におきたい。今泉 その意見に私も賛成だ。3頭はタイプがそれぞれ異なる。ミホシンザンは力、サクラユタカオーはスピード、ギャロップダイナはその両方を兼ね備えたタイプといえるだろう。ミホシンザンの有馬記念3着はいまひとつの成績だったが、ジャパンC3着は日本レコードで走っている。サクラユタカオーに次いで評価したい。

甲佐 シンボリドルフなきあととはミホシンザンだと期待していたが、秋4走がオール3着は物足りない。

柴田 4歳時の荒々しさがすっかり影をひそめた感じだ。

吉田 ミスターシービーがいい例だが、二冠、三冠馬というのは比較的早熟タイプが多い。だから、どうしても5歳の後半あたりになると他の古馬との差が詰まって活躍できなくなる。

1986年度フリーハンデ

岩沢 確かにミホシンザンはことし無冠に終わったが、ジャパンCは従来のレコードを破って走っているように、4歳時の力をそのまま発揮して走っていると思う。他馬が成長度を増してきたのであって、決してミホシンザンの力が衰えたのではない。

小林 私もこの馬の評価は下げるべきではないと思う。どのレースでもそれなりの力は出し切っている。他の馬の成長度が上まわっていただけだ。

柴田 外国の場合これまで3段階に分けていたのを、ことしから5段階に分けて分けて距離別のフリーハンデを付けるようになった。しかし日本の場合には克服距離が若干あいまいなところがあるので、どの距離を基本に考えるかむずかしいところだ。サクラユタカオーは二千までなら文句なくトップの評価を与えられるが、二千四百になると若干マイナスマテリアルであり、ミホシンザンと同格になる。有馬記念の結果がそれを如実に示している。

甲佐 サクラユタカオーが中距離の馬と考えるならば、カツラギエースと比較してみてもどうだろう。

渡辺 キョウエイプロミスは天皇賞に勝ってジャパンC2着で63だった。これから比較すると、ことしはそれよりも低い評価になって当然だろう。ミホシンザンは61ぐらいにとめざるを得ないのではない。サクラユタカオーは実績上それよりも一つ上と考えたい。この馬の場合、二千四百でもそれほど評価を下げる必要はないと思う。ジャパンCでは一つの画面にはいつてきているしミホシンザンとの差はなかった。

小林 いや、二千四百では差があるのではない。二千までならまちがいない。サクラユタカオーだが、二千四百で

はミホシンザンが上とみる。それにサクラユタカオーは天皇賞後のレースが情けない。4歳馬にも負けている。私はサクラユタカオーとミホシンザンは62の並びと考える。

今泉 中距離の最高峰は秋の天皇賞なのだから、このレースの勝ち馬は最大評価しなければならぬと思う。

小林 では、ジャパンCと有馬記念はどう評価するか。

今泉 両方を合わせて考えるのはちょっと酷ではないか。後者をもう一つの頭と考えるべきだろう。

滝沢 二千、二千四百にこだわらないで単純に考えた場合、ミホシンザンはジャパンCで好走したとしても残念ながらまったく勝ち鞍がない。それに比べてサクラユタカオーはGI一つ、GII二つの勝ち鞍がある。年度の実績で比較評価するならば、当然サクラユタカオーはミホシンザンの上になければならないのではない。

柴田 サクラユタカオー63、ミホシンザン62でどうだろう。

渡辺 サクラユタカオーはジャパンCの有馬記念で掲示板に載っていれば大いばりて63にいけるが、ギリギリの線だ。それに4歳馬に負けているのが気になる。一方、ミホシンザンはどう見ても61どまりだろう。

柴田 サクラユタカオーは63でよいのではない。

岩沢 私も63でいいと思う。

今泉 千八百のレコードも0・1秒でなくて0・1秒も塗り替えたのだから、63の評価は必要だろう。

柴田 ではサクラユタカオーを63に決めた。

甲佐 ミホシンザンの評価はギャロップダイナとの比較で考えてみたかどうか。私は2頭とも61の並びでよいと

86年のフリーハンデ 5歳以上

63	④サクラユタカオー
62	ギャロップダイナ
	④ミホシンザン
61	クシロキング
60	④パーシャンボーイ
59	ウインザーノット
	スタホーク
58	メジロトーマス
	④ライフタテヤマ
57	サクラサニーオー
	④スズカコバン
56	④サクラトウコウ
	スズパレード
	チェスナットバレー
55	④ドウカンヤシマ
	エーコーフレンチ
	シングルロマン
	④スーパーグラサード
	トウショウベガサス
	④ブラックスキー
	フリートホープ
54	ピンゴチムール
	④ロンスパーク
53	④スピードヒーロー
	トレードマーク
	メジロヘンリー
	ラウンドボウル
	リキサンパワー
	ワカオライデン
	イズミスター
52	④キップウシ
	シャイニングルビー
	※シーナンレディー
	※ダイナシュート
	④ダイヤモンドラン
	④ハクリョウベル
	ハツノアモイ
	④マチカネイシン
	モンデジャパン
	ヤクモデザイヤ
	※ユキノローズ
	④※ラッキーオカメ

(計42頭)

甲佐 次にパーシャンボーイとスタホーク、それにウインザーノットの評価
吉田 それならミホシンザンもギャロップダイナと同格とみて62*にすべき
柴田 では、ミホシンザンとギャロップダイナは62*、クシロキングは61*とする。

小林 ただ、やはりことしの春は取り巻きのレベルが低い。昨年の宝塚記念
吉田 それならミホシンザンもギャロップダイナと同格とみて62*にすべき
柴田 では、ミホシンザンとギャロップダイナは62*、クシロキングは61*とする。

甲佐 それに秋の天皇賞のメンバーは例年になくハイレベルだった。文句のつけようがない59*だ。
渡辺 春の天皇賞2着メジロトーマスの59*はちよつと無理か。
小林 春の実績は強く推せない。それにメジロトーマスの場合、勝つ馬というより着の馬というイメージが付きま

甲佐 55*54*を挙げると、55*にエーコーフレンチ、スーパーグラサード、フリートホープ、シングルロマン、ブラックスキー、トウショウベガサス。54*がロンスパーク、ピンゴチムール。滝沢 53*ではラウンドボウル、スピードヒーロー、ワカオライデン、リキサンパワー、トレードマーク、メジロ

岩沢 2頭とも暮れの有馬記念は完調で臨み、2着、3着にきたのだから並べてよいだろう。あと春の天皇賞馬クシロキングをどう評価するかが、春のメンバーが手薄であった以上、ギャロップダイナ、ミホシンザンよりは一つ下におきたい。
小林 天皇賞馬といえども、ことしの春はそんなに評価できない。ランクは下にすべきだ。
柴田 昨年のギャロップダイナは秋の天皇賞勝ちで61*だった。ことしは安田記念と有馬記念2着がある。62*を与えてよいだろう。一方、クシロキングはメンバーに恵まれたかも知れないが、金杯から天皇賞までのレース内容は素晴らしいものだった。少なくともこの馬には61*を与えなければなら

に移ろう。まず、パーシャンボーイをどういう形で評価するか。宝塚記念まではまったく無名の馬だった。
渡辺 宝塚記念でのレースぶりを見たが潜在能力は優に60*だ。ただ、あのハギノカムイオーは宝塚記念と高松宮杯とスワンSを勝って、それでも60*だった。同等に並べるのはどう考えても高すぎではないか。
吉田 昨年、同レースを勝ったスズカコバンが60*、これと叩き合って負けたサクラガイセンも天皇賞2着とAJC杯勝ちで60*だ。
柴田 昨年のスズカコバンは宝塚記念の一発で60*だった。パーシャンボーイはことし初めはまだ未勝利の馬だった。④のため復のレースしか出られないハンデを背負いながら勝ち上がった。初挑戦の重賞それもG1レースであれだけの競馬をするというのはただ者ではない。過去、60*にした馬は当然重賞に勝っているか、もしくは重賞レースを何度か経験していた馬だ。パーシャンボーイのようなケースは見当たらぬ。それだけに高い評価を与えない。

の上かきを見ると34秒台で力の決着になっているが、ことしはどうも中味が薄いような気がする。
滝沢 春のレベルが低かったとはいえず内容は圧勝だった。それにあの時点で一線級のクシロキング、スタホークを破っているのは評価できる。
岩沢 スタホークはサンケイ大阪杯までは調子よかった。AJC杯のレコード勝ちと京都記念を58*5*で勝った実績で59*ぐらいか。
小林 妥当だろう。
柴田 あとウインザーノットも59*とあったところか。函館の巴賞はオールツクのレコードとタイだった。中距離の二千では全部59秒台で走っている。天皇賞2着のタイムはギャロップダイナが持っていたレコードとタイだ。渡辺 天皇賞の2着を評価したら59*は当然だろう。

甲佐 55*54*を挙げると、55*にエーコーフレンチ、スーパーグラサード、フリートホープ、シングルロマン、ブラックスキー、トウショウベガサス。54*がロンスパーク、ピンゴチムール。滝沢 53*ではラウンドボウル、スピードヒーロー、ワカオライデン、リキサンパワー、トレードマーク、メジロ
今泉 56*ではスズパレード、サクラトウコウ、チェスナットバレー、ドウカンヤシマの4頭。スズパレードについては短距離部門のほうでむしろ高い評価が与えられよう。また、ロングハヤブサはマイラーとみて単独に短距離部門で評価したい。
甲佐 55*54*を挙げると、55*にエーコーフレンチ、スーパーグラサード、フリートホープ、シングルロマン、ブラックスキー、トウショウベガサス。54*がロンスパーク、ピンゴチムール。滝沢 53*ではラウンドボウル、スピードヒーロー、ワカオライデン、リキサンパワー、トレードマーク、メジロ

岩沢 2頭とも暮れの有馬記念は完調で臨み、2着、3着にきたのだから並べてよいだろう。あと春の天皇賞馬クシロキングをどう評価するかが、春のメンバーが手薄であった以上、ギャロップダイナ、ミホシンザンよりは一つ下におきたい。
小林 天皇賞馬といえども、ことしの春はそんなに評価できない。ランクは下にすべきだ。
柴田 昨年のギャロップダイナは秋の天皇賞勝ちで61*だった。ことしは安田記念と有馬記念2着がある。62*を与えてよいだろう。一方、クシロキングはメンバーに恵まれたかも知れないが、金杯から天皇賞までのレース内容は素晴らしいものだった。少なくともこの馬には61*を与えなければなら

に移ろう。まず、パーシャンボーイをどういう形で評価するか。宝塚記念まではまったく無名の馬だった。
渡辺 宝塚記念でのレースぶりを見たが潜在能力は優に60*だ。ただ、あのハギノカムイオーは宝塚記念と高松宮杯とスワンSを勝って、それでも60*だった。同等に並べるのはどう考えても高すぎではないか。
吉田 昨年、同レースを勝ったスズカコバンが60*、これと叩き合って負けたサクラガイセンも天皇賞2着とAJC杯勝ちで60*だ。
柴田 昨年のスズカコバンは宝塚記念の一発で60*だった。パーシャンボーイはことし初めはまだ未勝利の馬だった。④のため復のレースしか出られないハンデを背負いながら勝ち上がった。初挑戦の重賞それもG1レースであれだけの競馬をするというのはただ者ではない。過去、60*にした馬は当然重賞に勝っているか、もしくは重賞レースを何度か経験していた馬だ。パーシャンボーイのようなケースは見当たらぬ。それだけに高い評価を与えない。

の上かきを見ると34秒台で力の決着になっているが、ことしはどうも中味が薄いような気がする。
滝沢 春のレベルが低かったとはいえず内容は圧勝だった。それにあの時点で一線級のクシロキング、スタホークを破っているのは評価できる。
岩沢 スタホークはサンケイ大阪杯までは調子よかった。AJC杯のレコード勝ちと京都記念を58*5*で勝った実績で59*ぐらいか。
小林 妥当だろう。
柴田 あとウインザーノットも59*とあったところか。函館の巴賞はオールツクのレコードとタイだった。中距離の二千では全部59秒台で走っている。天皇賞2着のタイムはギャロップダイナが持っていたレコードとタイだ。渡辺 天皇賞の2着を評価したら59*は当然だろう。

甲佐 55*54*を挙げると、55*にエーコーフレンチ、スーパーグラサード、フリートホープ、シングルロマン、ブラックスキー、トウショウベガサス。54*がロンスパーク、ピンゴチムール。滝沢 53*ではラウンドボウル、スピードヒーロー、ワカオライデン、リキサンパワー、トレードマーク、メジロ
今泉 56*ではスズパレード、サクラトウコウ、チェスナットバレー、ドウカンヤシマの4頭。スズパレードについては短距離部門のほうでむしろ高い評価が与えられよう。また、ロングハヤブサはマイラーとみて単独に短距離部門で評価したい。
甲佐 55*54*を挙げると、55*にエーコーフレンチ、スーパーグラサード、フリートホープ、シングルロマン、ブラックスキー、トウショウベガサス。54*がロンスパーク、ピンゴチムール。滝沢 53*ではラウンドボウル、スピードヒーロー、ワカオライデン、リキサンパワー、トレードマーク、メジロ

岩沢 2頭とも暮れの有馬記念は完調で臨み、2着、3着にきたのだから並べてよいだろう。あと春の天皇賞馬クシロキングをどう評価するかが、春のメンバーが手薄であった以上、ギャロップダイナ、ミホシンザンよりは一つ下におきたい。
小林 天皇賞馬といえども、ことしの春はそんなに評価できない。ランクは下にすべきだ。
柴田 昨年のギャロップダイナは秋の天皇賞勝ちで61*だった。ことしは安田記念と有馬記念2着がある。62*を与えてよいだろう。一方、クシロキングはメンバーに恵まれたかも知れないが、金杯から天皇賞までのレース内容は素晴らしいものだった。少なくともこの馬には61*を与えなければなら

に移ろう。まず、パーシャンボーイをどういう形で評価するか。宝塚記念まではまったく無名の馬だった。
渡辺 宝塚記念でのレースぶりを見たが潜在能力は優に60*だ。ただ、あのハギノカムイオーは宝塚記念と高松宮杯とスワンSを勝って、それでも60*だった。同等に並べるのはどう考えても高すぎではないか。
吉田 昨年、同レースを勝ったスズカコバンが60*、これと叩き合って負けたサクラガイセンも天皇賞2着とAJC杯勝ちで60*だ。
柴田 昨年のスズカコバンは宝塚記念の一発で60*だった。パーシャンボーイはことし初めはまだ未勝利の馬だった。④のため復のレースしか出られないハンデを背負いながら勝ち上がった。初挑戦の重賞それもG1レースであれだけの競馬をするというのはただ者ではない。過去、60*にした馬は当然重賞に勝っているか、もしくは重賞レースを何度か経験していた馬だ。パーシャンボーイのようなケースは見当たらぬ。それだけに高い評価を与えない。

の上かきを見ると34秒台で力の決着になっているが、ことしはどうも中味が薄いような気がする。
滝沢 春のレベルが低かったとはいえず内容は圧勝だった。それにあの時点で一線級のクシロキング、スタホークを破っているのは評価できる。
岩沢 スタホークはサンケイ大阪杯までは調子よかった。AJC杯のレコード勝ちと京都記念を58*5*で勝った実績で59*ぐらいか。
小林 妥当だろう。
柴田 あとウインザーノットも59*とあったところか。函館の巴賞はオールツクのレコードとタイだった。中距離の二千では全部59秒台で走っている。天皇賞2着のタイムはギャロップダイナが持っていたレコードとタイだ。渡辺 天皇賞の2着を評価したら59*は当然だろう。

甲佐 55*54*を挙げると、55*にエーコーフレンチ、スーパーグラサード、フリートホープ、シングルロマン、ブラックスキー、トウショウベガサス。54*がロンスパーク、ピンゴチムール。滝沢 53*ではラウンドボウル、スピードヒーロー、ワカオライデン、リキサンパワー、トレードマーク、メジロ
今泉 56*ではスズパレード、サクラトウコウ、チェスナットバレー、ドウカンヤシマの4頭。スズパレードについては短距離部門のほうでむしろ高い評価が与えられよう。また、ロングハヤブサはマイラーとみて単独に短距離部門で評価したい。
甲佐 55*54*を挙げると、55*にエーコーフレンチ、スーパーグラサード、フリートホープ、シングルロマン、ブラックスキー、トウショウベガサス。54*がロンスパーク、ピンゴチムール。滝沢 53*ではラウンドボウル、スピードヒーロー、ワカオライデン、リキサンパワー、トレードマーク、メジロ

ヘンリー。
渡辺 52歳に牝馬のラッキークオカメ、
ユキノローズ、ダイナシユートの3頭。
タカラスチールら他の上位牝馬は短距
離部門で評価しよう。牡馬の52歳では、

3歳馬

全体的に層が薄い。サクラロータリー、ホ
クトヘリオス、メリーナイス、ゴールドシ
チー、ダイナサンキューを並べて54歳。

最後に、3歳馬の総体的評価に
移りたい。

柴田 関東では朝日杯3歳Sのメリー
ナイス、同2着のホクトヘリオス、府
中3歳Sをレコード勝ちしたサクラロ
ータリーが代表格だが、この3頭にく
らべその次にくるグループの馬たちは
かなり力が劣る。来年のクラシックを
意識できるような馬が何頭かいるには
いるが、こしは例年にくらべて全体
的に層が薄い。上位3頭にしてもサク
ラロータリーは故障で戦線離脱したし、
東の3歳チャンピオン・メリーナイス
も将来性となるとちよつと首をかしげ
る。例年にくらべて若干レベルが低い
といわざるを得ない。

吉田 確かにメリーナイスはこれから
先、距離が延びて疑問だ。
柴田 3頭の中ではホクトヘリオスが
実績が一番だろう。新馬戦も朝日杯3
歳Sもメリーナイスの3、2着だが、
負けてなお強しという印象。気性面に
問題があるものの、確実にしまいの脚
が使えるのは魅力だ。函館3歳Sと京
成杯3歳Sの二つの重賞も圧勝し、4
歳になってクラシックを狙える馬とし
てはホクトヘリオスを筆頭に挙げたい。
甲佐 私メリーナイスとホクトヘリ
オスの差はないと見る。朝日杯3歳S

ハツノアモイ、シャイニングルビー、
ダイヤモンドライン、イズミスター、
モンテジヤパン、キツボウシ、ハクリ
ヨウベル、ヤクモデザイヤーというこ
とになる。

ではホクトヘリオスは2着に敗れたが、
直線の長い東京コース向きの脚質の馬
だ。ただ、クラシックは多頭数になる。
後ろからいって馬群をどうさばくかが
こんごの課題となつてこよう。

滝沢 しかし能力的に従来のスクラム
ダイナやダイシンフブキの55歳とくら
べて一つ下のような気がする。

今泉 賛成だ。いま出た関東の上位3
頭だが、例年にくらべて傑出して
はいない。東では昨年のダイシ
ンフブキと同じ55歳を与えられる馬は
いないのではない。

柴田 3頭とも並べて54歳が妥当な
ところか。関西はどうだろう。

小林 現時点では阪神3歳Sを勝った
ゴールドシチーだろう。勝ち時計は物
足りないが、あの時は3歳が37秒台と
かなりペースが遅かったから仕方ない。
それでもゴール前で粘ったレースを
していたし、見所は十分にあった。あ
と、デイリー杯3歳Sを勝ったダイナ
サンキューは体のない馬だが、馬群を
割って出てくる勝負根性は特筆もので
ある。3歳馬らしからぬ競馬をする。
これもゴールドシチーと並べてよいだ
ろう。

滝沢 ゴールドシチーは距離もある程
度こなせそう。

1986年度フリーハンデ

小林 関東と同じく両馬ともクラシッ
クへいってどうかといわれると若干ト
ーンを下げざるを得ないが、こしは
東西のレベル差はないよう。

今泉 いずれにしても東西ともにこと
しは函館組がポイントになりそう。

例年関東だと新潟デビュー組から何頭
か話題馬が出ていたが、こしは全体
的にいま一つ伸び悩んでいて、これと
いった馬が1頭も出てこない。

吉田 小倉は天候がよかつたせいもあ
るが、千代でハセベルテックスとサン
キンハヤテが立て続けにレコードを塗
り替えるなどスピードのある3歳馬が
出てきて、その時点ではかなりハイレ
ベルだった。ところがその後のレース
ぶりを見ると2頭とも成長力に乏しい。
その後も大物感を感じる馬がデビュー
してこない。来年のクラシックが心配
だ。

渡辺 牝馬では、小倉3歳Sの関東馬
ハセベルテックスのレースを見たが、
負けただけでも勝ったサンキンハヤテ
よりは力は上とみる。レース面で不利
があつてなお接戦の2着だから能力は
高い。

柴田 あと関東ではテレビ東京賞3歳
牝馬Sを勝ったコーセイあたりか。
吉田 関西では、ダービーの新馬戦を勝
つて2戦目でラジオたんぱ杯3歳牝S
を制したドウカンジョーの能力が高い。
マックスビューティはこの馬に負けた
がレースぶりには見所があつた。これ
だけで評価を下げるのは早計だ。

小林 牝馬も上位2、3頭とはかの馬
の力差に大きな開きがある。

柴田 では評価に移ろう。関東ではサ
クラロータリー、ホクトヘリオス、メ
リーナイス。関西ではゴールドシチー、
ダイナサンキュー。以上5頭を54歳で
並べてよい。

今泉 例年にくらべても当然54歳が妥
当なところだ。

岩沢 スズラバンは重賞実績がないが、
府中3歳Sをレコード勝ちしたサクラ
ロータリーと好勝負をした。自身もレ
コードで走っている。その後のひら
ぎ賞も強い勝ち方をしているし、この
ひらぎ賞の勝ち馬は例年クラシック
で好成績を残していることから、将
来性は十分に高いとみる。スズラバン
には53歳を与えたい。

甲佐 上位の重賞実績馬が54歳なのに、
重賞勝ちがなくて53歳というのは与え
すぎではないか。

小林 3歳馬に限っては実績と将来性
のバランスが重要なポイントになる。
それからいくとスズラバンが53歳でも
問題ない。

柴田 では関東の53歳はスズラバンと
重賞勝ちのコーセイ。ハセベルテッ
クスはその後のレースぶりがいまいつな
ので52歳に下げたい。

渡辺 関西では、ファンドルスキーと
ドウカンジョーが53歳だ。

柴田 あとは将来性も加味して、52歳
にランクできる馬をピックアップして
みたい。

滝沢 関東ではウインホイッスル、ガ
ルダンサー、キリノトウコウ、クル
ハート、スーパーフアントム、ディ
アドータ、トチノルーラー、ハセベル
テックス、マイネルダビテ、レオテン
ザンの10頭。

吉田 関西ではダイカツケンホウ、タ
ケノコーリー、マックスビューティ、
ヤマニアンデンの4頭まで。

柴田 以下の馬については、別表を参
考にしたい。

88年のフリーハンテ

3歳(東)

- 54 (父) サクラロータリー (トウショウボーイ=テンズパーク)
ホクトヘリオス (パーソナリティ=ホクトヒショウ)
メリーナイス (コリスキー=ツキメリー)
- 53 (父) ※ コーセイ (タイテム=ハマノールフ)
スズラバン (シーホーク=スズイセン)
- 52 ※ ウインホイッスル (ソープレスド=ウォーホイッスル)
ガルダンサー (ヴァイスリーガル=オディオラ)
キリノトウコウ (ノーザンディクテーター=ミヨトウコウ)
※ クールハート (ディクタス=コーネリアン)
スーパーファントム (ゴリスキー=エイミ)
- (父) ※ ディアドータ (トウショウボーイ=シンピラン)
(父) (市) トチノルーラー (ラッキールーラー=セイビニシキ)
※ ハセベルテックス (ビットカーン=ハセマサル)
マイネルダビテ (デュール=ニホンピロチャイナ)
レオテンザン (スイフトスワロー=スイートナイル)
- 51 (父) ウINSTON (バンブーアトラス=エンタープライズ)
(父) サクラジェイド (アロー=エクスプレス=ロッチテスコ)
(父) ※ サクラバリュウ (サクラショウリ=サクラヒメ)
スルーオダイナ (ノーザンテースト=スルー)
タイガープリンス (ロイヤルニジンスキー=フルカード)
※ ダイナスターライト (ノーザンテースト=ネイティブスター)
(父) ※ タクノチドリ (トウショウボーイ=センキノ)
(父) ドウカンプレス (プレストウコウ=キヨボールド)
※ トウホーロイヤル (ロイヤルスキー=オンワードイサベル)
※ トキノキャロル (ダンシングキャップ=キッシュファイター)
- (父) (地) ※ ナエボルーラ (ラッキールーラー=サラ系シンセイリュウ)
ナカミオーエンス (ターゴワイス=シマサントス)
※ ナカミジュリアン (モガミ=ナカミサファイヤ)
バナレット (ノーザリー=マニングマテルグ)
ビューーコウ (ターゴワイス=フジノブルース)
(市) ヒロウエルダ (ソヴリングリーム=ヒダウエル)
- (市) ※ ベルロビン (ホットスパーク=イセシンプー)
ボールドノースマン (ノーアテンション=ヒダクロス)
マテリアル (パーソロン=スイートアース)
メグロアサヒ (モーニングフローリック=クロスオーバー)
リワードタイラント (ミシシッピアン=モンベツスター)
アサカネアルコ (ターゴワイス=サンエムテスコ)
- 50 (父) インターライジング (マルゼンスキー=チヨクダイン)
ウイldrゴン (ハビトニー=メイジビクトリア)
カシマホーク (テスコボーイ=ピンクメリー)
※ クリアルコ (ノアルコ=フアットウイゼル)
※ クリキャロル (イングリッシュプリンス=カツベンダス)
※ サガミコトブキ (ノーザンアンサー=ロニイ)
ダイカツグリン (インターメゾ=キタノヤシマ)
(父) タイカベラ (タイテム=タイアート)
ダイナレター (ノーザンテースト=トウザレター)
(父) ターボツイグ (ミズホ=スズランチドリ)
※ ハニーブルース (Cure the Blues=スーパーハニイ)
(父) ハヤテパーシング (マルゼンスキー=ヒカリチグサ)
ビゼンワシュウ (ゴマーチング=ボウモンティア)
フタバハヤテ (ファルコン=ミナトイレン)
(父) ベストプリンセス (モンテプリンス=スピードヤマトシ)

(計52頭)

3歳(西)

- 54 ゴールドシチー (ヴァイスリーガル=イタリアンシチー)
ダイナサンキュー (ノーザンテースト=メルシーダイナ)
- 53 (父) (市) サンキンハヤテ (リードワンダー=ゴールデンマー)
(父) ※ ドウカンジョー (トウショウボーイ=ミキノジョー)
ファンドリスキー (ロジンスキー=ファンドリユミコ)
ダイカツケンホウ (マラケート=ナッシングライムド)
- 52 (父) ※ タケノコーリー (アロー=エクスプレス=タケノダンサー)
※ マックスビューティ (ブレイヴエストローマン=フジカレディ)
(父) ヤマニンアーデン (ハイスイコー=ユシキノ)
※ アグネスシャレード (ターゴワイス=アグネスレディー)
エイシンテンペスト (ハビトニー=エイシンソネラ)
- 51 (市) ※ オカノアスティアー (ミルジョー=アステフォン)
シルクテアー (リマンド=シルクルーラー)
シンジェット (ゲイル=ザック=シンフェイム)
※ ニホンピロクリア (ブレイヴエストローマン=ニホンピロアスター)
ハギノスバル (マクボーイ=ハギノサクラ)
ホウエイソプリン (ラッキーソプリン=パーソフジ)
メジロゴスホーク (ニゾン=メジロハンサー)
ヤエギクオー (ラッキーソプリン=ランズブロン)
(父) ※ ヤマトムラサキ (プレストウコウ=アカネムラサキ)
(父) (地) ラッキーオーシャン (サラ系キタノダイオー=イクワライザー)
ロングオスカー (ロイヤルスキー=スイブ)
- 50 (父) アスコットカザン (ヨドヒーロー=ヨドスイート)
(市) ※ アンドロジェニー (モガミ=スイートリチャード)
イブキノセイウン (ノーザンテースト=シャダイルック)
ウイニングコウイチ (アンズブリテンダー=メジロカベラ)
(父) エイシンギャラント (トウショウボーイ=メイワスール)
※ エイシンゴテス (ロイヤルスキー=エイシンチドリ)
※ エイシンジュエリー (パーソロン=アラシガオカ)
※ オオミーアキノ (ノーザンテースト=オオミシヤダイ)
オサイチプレベスト (ブレイヴエストローマン=ホクチクスター)
シルクサーベン (サーベン=クインマハール)
※ シンソプリン (ラッキーソプリン=シンサーザンクロス)
※ スティングラン (クラウドプリンス=ミスエオス)
ダイカツケンザン (アラナス=ダイカツスター)
(父) ※ ダイナソルシエール (ニチドウアラシ=マリーウィング)
ダイナチョイス (ディクタス=バリスチョイス)
タマモスイセイ (ダンサースイメー=タマモコトブキ)
※ ナムラマイヒメ (ノーザンディクテーター=マドモアゼルナムラ)
- (父) (地) ※ ハヤトスキー (ヤマニスキー=スガヌマホーフ)
ハヤブサオーカン (ラディガ=サンエムチドリ)
フォワードツモロー (ヴァリイフォーシュ=サンビタリア)
マヤノオリンピック (ロンバード=ミレーヌ)
(父) ※ マリーサンライズ (バンブーアトラス=エイコーヘア)
ミスターテンリ (ノーザンアンサー=テンリオーカン)
(父) ミリオンキャスパー (シーピークロス=スプリングホープ)
モガミホース (クラウドプリンス=ホースメンジョー)
ヤマノガリバー (ダイアトム=カズヒデ)
(父) ※ ラブストーリー (サクラシゲキ=タニノダイイチ)
リュウコウスピード (ノーザンアンサー=サンムーティエ)
(父) ロングマーチ (ロングファスト=トキナミ)
※ ワンダードレサラー (ブレイヴエストローマン=アンチスター)

(計52頭)